

# 令和2年度 施策評価シート

<b>基本目標</b>		地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
<b>政策</b>	220	区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる
<b>施策</b>	221	主要駅を中心とした広域拠点と、身近な生活拠点を形成する
<b>施策の目標</b>	主要駅周辺は、便利でにぎわいのあるまちになり、多くの来街者が訪れています。また、生活拠点では日常生活に必要な施設が身近に整い、誰もが安心して便利に暮らしています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

<b>指標名</b>	「主要駅(錦糸町・両国・押上・曳舟)周辺が、住み、働き、憩うことのできる便利でにぎわいのある地域となっている」を思う区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	72.9%				75.0%					80.0%
実績										
<b>指標名</b>	「歩いて行ける範囲に商店・医院・公益施設などがあり、日常の用事が足せている」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	82.2%				83.0%					85.0%
実績										

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
主要駅(曳舟)周辺 ・再開発事業、京成押上線立体化等が一部完了したことにより、便利で快適な移動空間が形成され、にぎわいが生まれてきている。 ・曳舟たから通り整備事業においては、用地買収や電線類地中化等の整備を進めてきた。	H29	202,535
	H30	90,073
	R1	96,837

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	各事業が調整、連携を図りながら事業を進め、完了したため。

## 4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
曳舟たから通り拡幅整備事業は完了したが、引続き主要駅周辺の整備を進めていく必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
京成曳舟駅周辺道路整備事業、区画街路第12号線整備事業等と調整を図りながら、主要駅周辺のにぎわいを創出する。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
					年度実績値	評価対象年度
1	曳舟たから通り整備事業	96,837	5,243	102,080	350	廃止を検討
					350	令和元年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						



事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	用地買収(延べ件数)				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		8	R1	目標	6	7	7	8
				実績	6	7	7	8
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標 実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	電線共同溝や道路を整備するための手段として、用地買収が絶対条件になることから指標とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	道路整備の総延長(電線共同溝含む)				単 位	m
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
350		R1	目標	95	190	250	350	
			実績	95	190	250	350	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標 実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
道路の整備完了が本事業の完了であるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
統合や縮小を検討	用地買収とその後の電線共同溝を含む道路拡幅整備が完了したため、事業の目的を達成した。

課題・問題点
令和元年度に整備を完了した。